

鶴亀算 ⑤

20円切手と40円切手と80円切手が合計で15枚あります。
合計で700円です。
20円切手と40円切手と80円切手はそれぞれ何枚ありますか。

まず 20円切手と40円切手を平均の30円切手とします。
15枚ある切手をすべて30円切手だと考えます。
30円切手15枚 450円
これだと余っている金額は250円
 $700 - 450 = 250$ 円
余っている金額を80円切手に変えるので
 $250 \div 50 = 5$ 枚
そうなると80円切手5枚になり、
20円切手と40円切手はそれぞれ5枚ずつ。

答え

20円切手 5枚
40円切手 5枚
80円切手 5枚



1円玉と5円玉と10円玉が合計で30枚あります。
合計金額は118円です。
1円玉と5円玉と10円玉それぞれ何枚ありますか。

まず 1円玉と5円玉を平均の3円とします。
30枚あるお金をすべて3円だと考えます。
3円が30枚 90円
これだと余っている金額は28円
 $118 - 90 = 28$ 円
余っている金額を10円玉に変えるので
 $28 \div 7 = 4$ 枚
そうなると10円玉は4枚になり、
1円玉と5円玉はそれぞれ13枚ずつ。
 $30 - 4 = 26$ 枚

答え

1円玉 13枚
5円玉 13枚
10円玉 4枚

